令和7年度　第1回恵庭市自殺対策ネットワーク会議　会議録

日　時　：　令和7年8月6日(水) 14時00分～15時00分
場　所　：　えにあす2階 会議室8
出　席　：（　委員　）阿部委員、辻委員、南川委員、森田委員、早坂委員、田中委員、益田委員
　　吉田委員、長政委員、中川委員、伊瀬谷委員、駒宮委員、八巻委員、瓜谷委員、
　　佐々木委員、髙野委員、森下委員(代)
　（ 事務局)伊東保健福祉部長、足立保健ｾﾝﾀｰ長、須貝保健課長、庄林健康推進･食育担当主査、加地
欠　席　：（　委員　）大川委員、小野澤委員
傍　聴　：　なし

1. 開会
保健センター長より、会議の出席は委員総数19名中17名であり、委員の半数以上の出席があり成立していることを報告。本会議が恵庭市自殺対策ネットワーク会議設置要綱の規定により、公開となっていることを説明。

2. 部長挨拶

3. 議事
会長の進行により、以下のとおり議事を審議。

（1)「いのち支える恵庭市自殺対策」について(資料1．2)　　事務局より説明(須貝課長)

（2)恵庭市における自殺の状況 (資料3．4)　　事務局より説明(庄林主査)

（3)基本施策ごとの事業の実施状況 (資料5)
各団体より、資料5　2)各部署の事業実施状況に基づき、取り組み状況を報告

(E委員よりA委員へ質問)
Q.恵庭市教頭会に質問であるが、自己防衛向上プログラムの学級満足度調査(QU)について、実際にどのように生かしているのかを知りたい。
A.子ども理解支援ツール(ほっと)は、子ども達の集団の様子や満足度を図るようなものになっている。QUは個別で子ども達がの状況が分析できるようになっている。データを分析しながら学級の状況を見たり、個別に声をかけるということに活用している。
Q.満足度の低い学生や急激に満足度が下がった学生の情報について学校で共有され、面談やカウンセリングで対応しているということか。
A.そうである。教育相談や面談の時に、それとなく聞き取ったり、悩みを聞いている。

(Q委員より意見･報告)
･資料5で今回様式が変わり、各機関の自殺対策の取組みや現状課題が整理されてよかったと思う。現状課題を整理･深堀りすることで、地域の課題が明確となり、恵庭市における自殺対策の方向性が導き出されるのではないか。
･ゲートキーパー養成講座について、自殺対策のロードマップを作成しながら、年度ごとに対象や目的を明確にしながら開催するとよいのではないか。恵庭市の自殺の実態や取り組みを盛り込んでいくと、より身近な自分達の市の問題や現状ということで、理解に繋がるのではないか。
(事務局)
ぜひご意見を頂いた通り、ゲートキーパー養成講座の対象や目的を明確にして実施していきたい。

（4)令和7年度　事業計画 (資料6)　　事務局より説明(庄林主査)

(J委員より事務局へ質問)
Q.資料6の令和7年度事業計画について、昨年度自殺対策計画を策定しているので、それが事業計画になるのではないか。
A.事業計画は保健課の事業計画である。

（J委員より事務局へ質問）

Q.重層的支援体制の整備がどういうことを目指しているのか。

A.福祉課を中心として体制整備を図っている。令和8年度からの本格実施で、令和6年度と7年度は国が示す移行準備期間になる。新たなセクションを作るのではなく、今までも単体のセクションや関係機関で対応や連携をしていたが、既存の体制を活用してより連携しやすいように体制を作っていく。令和8年度に全て実施していくというのではなく、ブラッシュアップしながら実施していく。

（5）その他

事務局より（須貝課長）：

本会議は、今年度は1回実施。来年度も同時期に開催予定。

4. 閉会